

目標は自分の足元から 連なっている

プロ登山家／竹内洋岳

最近、大人が「夢をもて」とか「あきらめなければ夢は必ず叶う」などと言っていますが、未来と可能性を秘めた子どもは本来夢なんて信じる必要なんかないけれど、大人に合わせて夢を語っているだけだと思うんです。

そもそも夢は寝て見るもの。夢を実現するための方法はあきらめないことくらいしかない。しかし、それだけでは何も成し遂げることができないと思うんです。

僕が若い世代に対してもってほしいのはそんなあいまいな夢などではなく目標です。その目標はどんなに遠く、高くても、自分の足元から続いていると確信できれば到達の可能性は生まれます。例えば山の頂上という目標なら、到達するためにはどんなスキルを身につけるべきか、どんなルートがいいのか、どんな装備、道具が必要なのか、誰と組むべきかなど、戦略、戦術を考えるようになり、それが固まると到達の可能性は高まります。だから僕は、あいまいな夢なんかよりも自分の足元から続く目標をもってほしいと若い世代には言いたいのです。

こういうことを大人たちがもっと子どもに伝えるべきだと思うんです。子どもが悩んだり迷ったりしているときに、「あきらめるな」と言うのではなく、目標に到達するためにはこういう道具があるとか、こういう手段があるとか、こういう人と一緒に行けばいいよとか助言できることこそが、子どもたちよりも余計に生きている者の務めでしょね。

Hiroataka Tekeuchi

竹内洋岳

たけうち・ひろたか ● 1971年東京都生まれ。立正大学卒。幼少期に祖父に連れられて登山やハイキング、スキーを体験。高校、大学では山岳部で国内外の登山を経験し、20歳のとき初めてヒマラヤの8000m級の山に登る。以後8000m級の山に挑み続け、登山中に脳血栓や雪崩で瀕死の重傷を負うも、2012年5月、日本人初の8000メートル峰全14座の登頂に成功。その功績により同年第17回「植村直己冒険賞」を、2013年には「文部科学大臣顕彰、スポーツ功労者顕彰」を授与。現在は母校、立正大学の客員教授を務めるほか、株式会社ICI石井スポーツの社員としてヒマラヤ登山のアドバイザーなどを務めている。著書に「標高8000メートルを生き抜く登山の哲学」(NHK出版新書)、『頂きへ、そしてその先へ』(東京書籍)などがある。高校での講演活動やテレビ番組出演多数。

ネット閲覧可

「キャリアガイダンス.net」では登山の哲学やプロフェッショナル論を語るロングバージョンをお読みいただけます